

第3章 本巢市の概要と前提条件

1 位置・地勢・自然環境

本巢市は、平成16年(2004年)2月1日に、本巢町・真正町・糸貫町・根尾村が合併し、東西約17km、南北43km、総面積376.65km<sup>2</sup>、岐阜県の南西部のほぼ中央から北端に位置する。

市域の86%が森林で、標高1,617mの能郷白山をはじめ、1,000m級の急峻な山並みや谷を流れる根尾川、淡墨桜など、恵まれた自然環境がある。

揖斐川水系の根尾川は本市を南へ貫流し、上流域では金山峡谷等の優れた渓谷美が魅力となっている。下流域では、堆積作用によって形成された緩やかな扇状地に肥沃な平野が広がり、農業、商業、工業などの活動が展開されている。

植生は、県境の能郷白山山頂付近で亜高山帯の植生やブナの天然林がみられ、奥美濃地方に残された唯一の自然林地帯として岐阜県の「自然環境保全地域」に指定されている。南部に行くほど、スギ・ヒノキ等の植林やコナラ・アカマツ等の代償植生の2次林の分布が増える。

平野部は、多くを水田耕作地あるいは果樹園が占め、船来山は平野部の貴重な樹林を含む緑地となっている。

根尾川は天然魚の宝庫で、アユ等の多様な魚類や水生生物が生息している。希少な淡水魚オニヤラミは市指定の天然記念物(地域指定)、ハリヨは岐阜県の希少野生生物に指定され、「明谷ハリヨ指定希少野生生物保護区」として湯ノ古公園で保護されている。席田用水(糸貫川)等は、ゲンジボタルが生息し、市内3つの区域で「本巢市螢保護条例」によって保護されている。

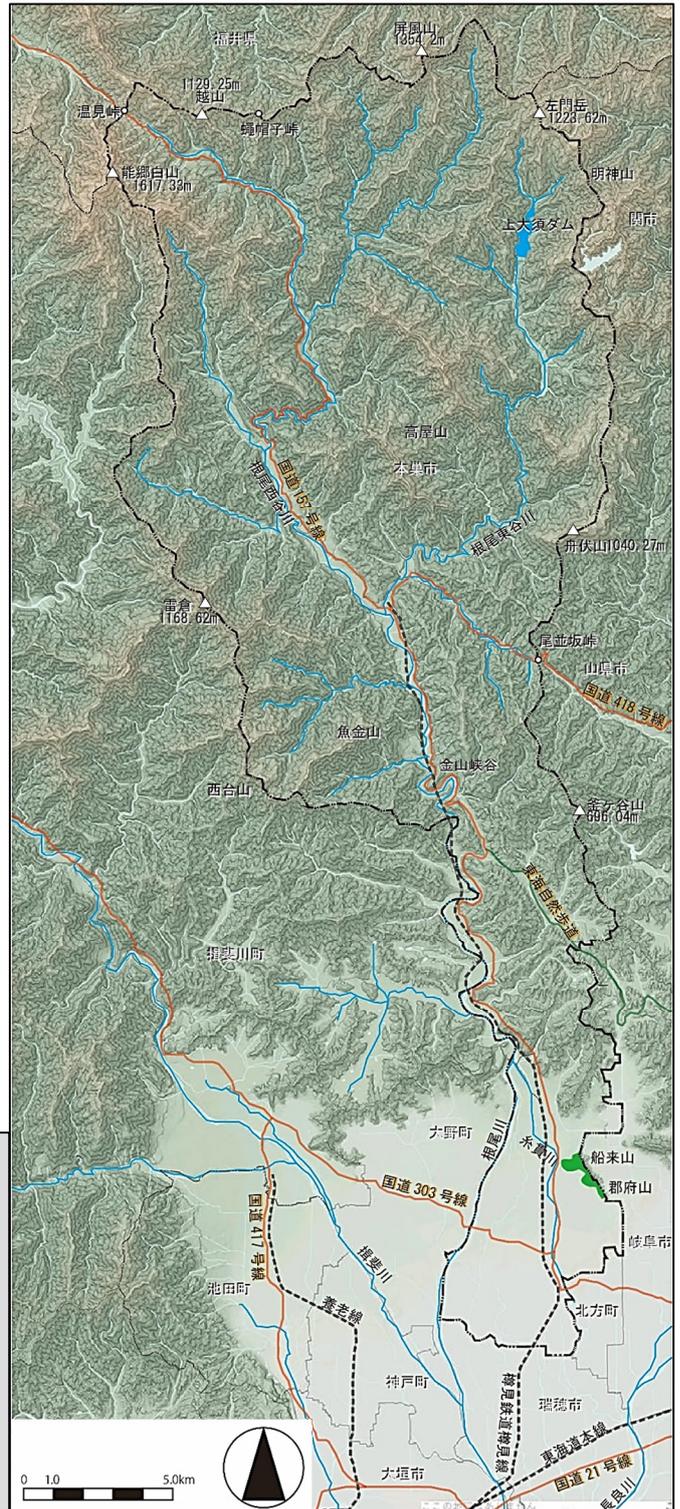


図3-1 地勢図

2 人口・世帯数

平成 27 年(2015 年)9 月末現在、本巢市の人口は 35,159 人、世帯数 12,170 世帯である。国勢調査によると、人口は昭和 35 年(1960 年)以降、40 年間で約 1.3 倍に増加し、ここ数年は、35,000 人前後で横ばいに推移している。

一方、世帯数は現在も増加している。核家族化や世帯分離が進んでおり、1 世帯あたりの人口は現在 2.9 人と、昭和 35 年(1950 年)の 5.1 人からは 2.2 人減少している。

年齢(3 区分)別人口の推移をみると、0~14 歳の年少人口は減少傾向にある一方、65 歳以上の高齢者人口は増加を続けており、確実に少子高齢社会へと進んでいることがわかる。

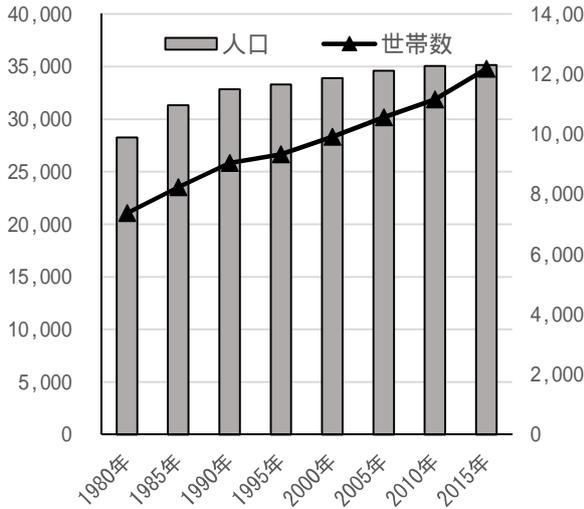


図 3-2 本巢市の人口と世帯数の推移

『2012 年本巢市市勢要覧』を元に、2015 年は 9 月末現在のデータを使用して作成

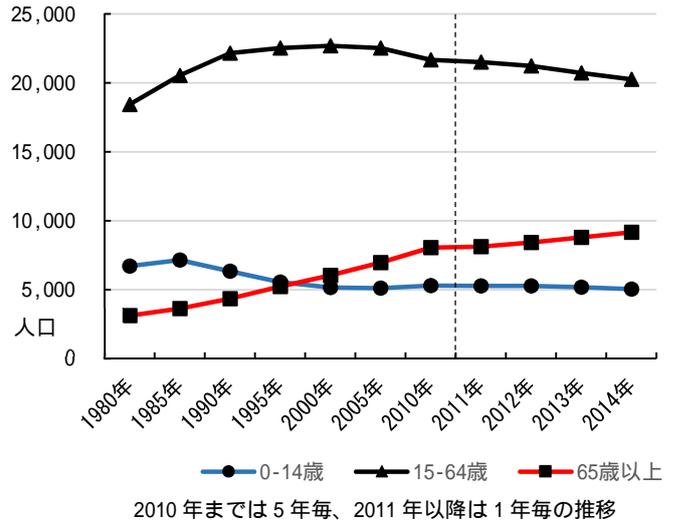
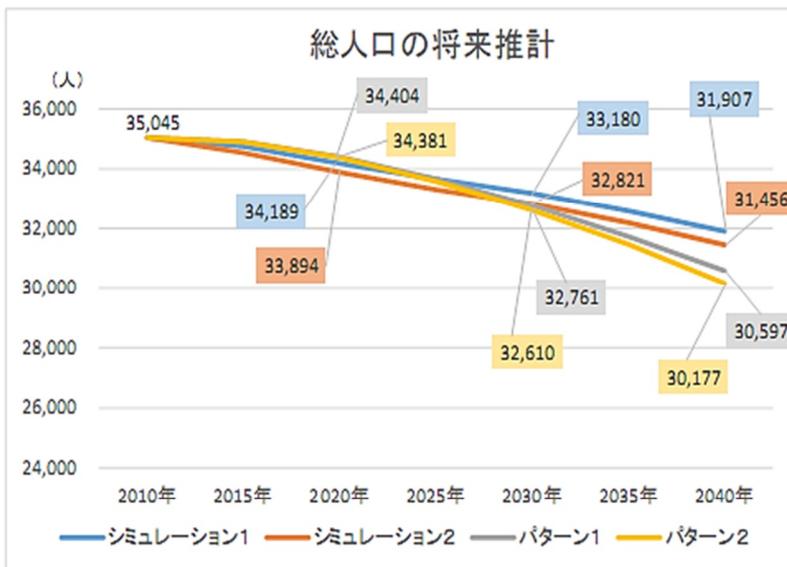


図 3-3 年齢(3 区分)別人口の推移

『統計からみた本巢市の現状』(平成 27 年 1 月、岐阜県環境生活部統計課)より引用作成

将来人口について、『本巢市人口ビジョン』(平成 27 年 10 月、本巢市)において、2 つのパターンとシミュレーションで将来推計が示されている。



これによると、本巢市の人口は現時点で 35,000 人あまりであるが、平成 52 年(2040 年)時点では、

- 合計特殊出生率が 2.1 にまで上昇した場合、31,907 人(シミュレーション 1)
- 合計特殊出生率が 2.1 にまで上昇し、人口移動が均衡した場合、31,456 人(シミュレーション 2)
- 稼働率が一定程度縮小した場合、30,597 人(パターン 1)
- 稼働率が現在と同水準で推移した場合、30,177 人(パターン 2)

と推計されている。

【出典】国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」に基づきまち・ひと・しごと創生本部作成

図 3-4 総人口の将来推計

『本巢市人口ビジョン』(平成 27 年 10 月、本巢市)より引用

### 3 文化財

#### (1) 国指定文化財

「根尾谷淡墨ザクラ」は樹齢 1500 余年ともいわれる老桜で、天然記念物に指定されている。各界の人々の懸命な保護運動により、現在でも春になると見事な花を咲かせ、多くの人を訪れる観光名所となっている。

明治 24 年の濃尾地震により、震源地の水鳥地区に隆起した上下 6m、長さ 1,000m にも及ぶ断層崖と、中地区の横ずれ断層で、地質学的にも重要で価値が高い「根尾谷断層」と、菊の花模様が浮かび上がった「根尾谷菊花石」は特別天然記念物に指定されている。

「真桑の人形舞台」は物部神社にあり重要有形民俗文化財に指定されている。太夫座・田楽返しなどの舞台装置が残された農村舞台は全国的にも珍しい。毎年、物部神社の祭礼で上演される「真桑人形浄瑠璃」は重要無形民俗文化財に指定されている。

根尾能郷にある白山神社では、能郷の猿楽衆により毎年、神事芸能「能郷の能・狂言」として室町時代以前より伝承され、重要無形民俗文化財に指定されている。

このほか工芸品や絵画、典籍等の有形文化財がある。

#### (2) 県指定文化財

市南端にある「宗慶大塚古墳」が県指定史跡に指定されている。3 世紀後半の土器が出土した古墳時代前期の前方後円墳で、現在は周辺を公園として整備されている。

「国恩寺のヒイラギ」が県指定天然記念物に指定されており、弘法大師が国恩寺を訪れた際のお手植えの木であるともいわれている。

根尾樽見の白山神社の神事「樽見の十一日祭」と、「長屋神社の祭礼行事」が重要無形民俗文化財に指定されている。「樽見の十一日祭」は旧暦の 1 月 11 日に行い、別名田楽祭りとも言われ口伝で神事を伝えられている。「長屋神社の祭礼行事」は毎年 8 月 2 日に行われ、「馬駆け祭り」では神馬が神社境内を馬で駆け抜ける。

「長屋神社本殿附棟札・古文書」と「観音堂」・「護摩堂」が建造物として県指定有形民俗文化財に指定されている。「長屋神社本殿」は、三間社流造りで、正面に唐破風と千鳥破風をつけた華麗な神社建築である。市南部の法暎寺にある、「観音堂」・「護摩堂」は 17 世紀の建立である。

#### (3) 市指定文化財

船来山古墳群や宝珠古墳など、古墳時代の出土品が市指定有形民俗文化財に指定されている。船来山古墳群出土資料は、現在 8739 点となっており、特に後期古墳から 6000 点を越える玉類などの装身具類が出土している。

「条里遺跡」や「東山道跡」、法林寺古墳群「此奥 1 号、3 号、4 号、6 号古墳」等が市指定史跡に指定されている。

寺社の境内に残るイチヨウやスギ、カシ、シイ、サクラ等の大木が多数市指定天然記念物に指定されている。

十四条の「八幡神社本殿」と神海の「春日神社本殿」のほか、県指定長屋神社本殿の境内にある「八王子神社」が建造物として市指定有形民俗文化財に指定されている。十四条の「八幡神社本殿」は江戸時代の再建ながら、桃山期の遺風を残し、「春日神社本殿」、「八王子神社本殿」は、豊かな建築彫

刻で装飾され、意匠的にも優れた建物である。

このほか、文殊の善永寺にある「麒麟鐘（梵鐘）」等の工芸品や、護摩堂の「阿弥陀如来像」、「木造不動明王立像」等の彫刻、絵画等多数が市指定有形文化財に指定されている。

「門脇の雨乞踊り」や「春日神社の米かし祭」、「八幡神社の粥づけ占い」等が無形文化財に指定されている。

表 3-1 本業市内指定文化財件数

種別		国指定	県指定	市指定	合計
有形文化財	建造物	4	2	3	10
	絵画	-	-	6	6
	彫刻	1	-	16	17
	工芸品	1	6	13	20
	書籍	-	-	2	2
	典籍	6	1	3	10
	古文書	3(1)	-	2	5(1)
	考古資料	-	-	3	3
記念物	史跡	-	1	9	10
	名勝	-	-	1	1
	特別天然記念物	2	-	-	2
	天然記念物	1	1	28	29
民俗文化財	有形民俗文化財	1	1	1	3
	無形民俗文化財	2	2	7	11
		21(1)	14	94	129

( ) 内は、国宝指定内訳件数

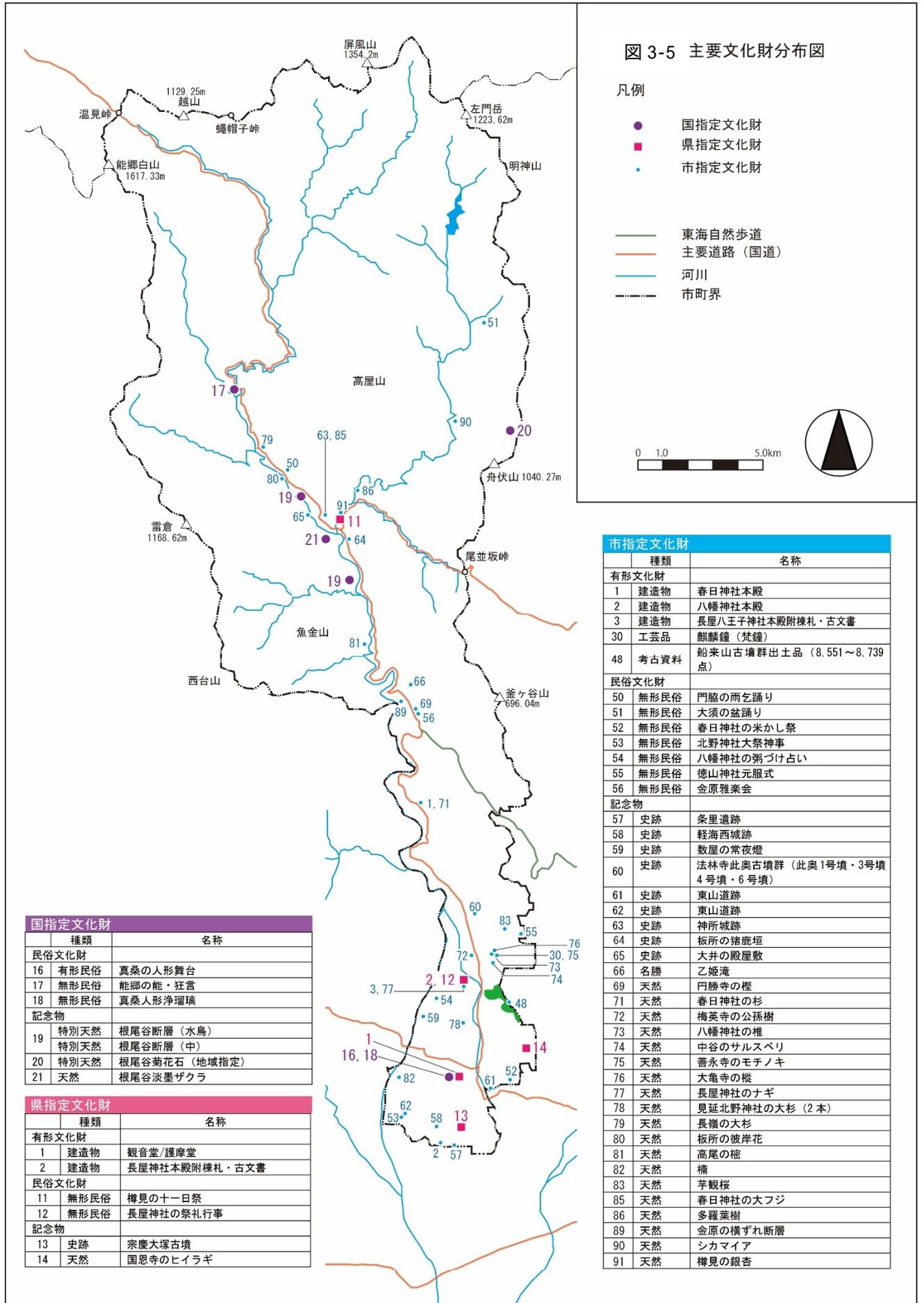


根尾谷淡墨ザクラ



能郷の能・狂言

図 3-5 主要文化財分布図



国指定文化財	
種類	名称
民俗文化財	
16	有形民俗 真桑の人形舞台
17	無形民俗 能郷の能・狂言
18	無形民俗 真桑人形浄瑠璃
記念物	
19	特別天然 根尾谷断層（水鳥）
	特別天然 根尾谷断層（中）
20	特別天然 根尾谷菊花石（地域指定）
21	天然 根尾谷淡墨ザクラ

県指定文化財	
種類	名称
有形文化財	
1	建造物 観音堂/護摩堂
2	建造物 長屋神社本殿附棟札・古文書
民俗文化財	
11	無形民俗 樽見の十一日祭
12	無形民俗 長屋神社の祭礼行事
記念物	
13	史跡 宗慶大塚古墳
14	天然 国恩寺のヒイラギ

市指定文化財	
種類	名称
有形文化財	
1	建造物 春日神社本殿
2	建造物 八幡神社本殿
3	建造物 長屋八王子神社本殿附棟札・古文書
30	工芸品 麒麟鐘（梵鐘）
48	考古資料 船来山古墳群出土品（8.551～8.739点）
民俗文化財	
50	無形民俗 門脇の雨乞踊り
51	無形民俗 大須の盆踊り
52	無形民俗 春日神社の米かし祭
53	無形民俗 北野神社大祭神事
54	無形民俗 八幡神社の粥づけ占い
55	無形民俗 徳山神社元服式
56	無形民俗 金原雅楽会
記念物	
57	史跡 条里遺跡
58	史跡 輕海西城跡
59	史跡 数屋の常夜燈
60	史跡 法林寺此奥古墳群（此奥1号墳・3号墳4号墳・6号墳）
61	史跡 東山道跡
62	史跡 東山道跡
63	史跡 神所城跡
64	史跡 板所の猪鹿垣
65	史跡 大井の殿屋敷
66	名勝 乙姫滝
69	天然 円勝寺の樫
71	天然 春日神社の杉
72	天然 梅英寺の公孫樹
73	天然 八幡神社の椎
74	天然 中谷のサルスベリ
75	天然 善永寺のモチノキ
76	天然 大亀寺の樫
77	天然 長屋神社のナギ
78	天然 見延北野神社の大杉（2本）
79	天然 長嶺の大杉
80	天然 板所の彼岸花
81	天然 高尾の樫
82	天然 楠
83	天然 芋観桜
85	天然 春日神社の大フジ
86	天然 多羅葉樹
89	天然 金原の横ずれ断層
90	天然 シカマイア
91	天然 樽見の銀杏

4 観光

根尾地域の豊かな森林や根尾川の清流をはじめとする自然環境、春の淡墨桜をはじめとした四季折々の観光資源、それらの資源を活用したイベント等が開催されている。

平成19年度に市の観光協会を設立し、観光客の受け入れ態勢や観光PRの強化が図られている。

年間入込観光客数については、平成26年で845,115人である（行祭事・イベントも含む、岐阜県による市町村別調査）。10年前の平成17年の約110万人から少しずつ減少し、平成23年から84万人前後でほぼ横ばいになっている。

このうち、最も多い集客施設は、道の駅「織部の里もとす」で約36万人（平成26年）、続いて淡墨桜で26万人弱（同年）である。

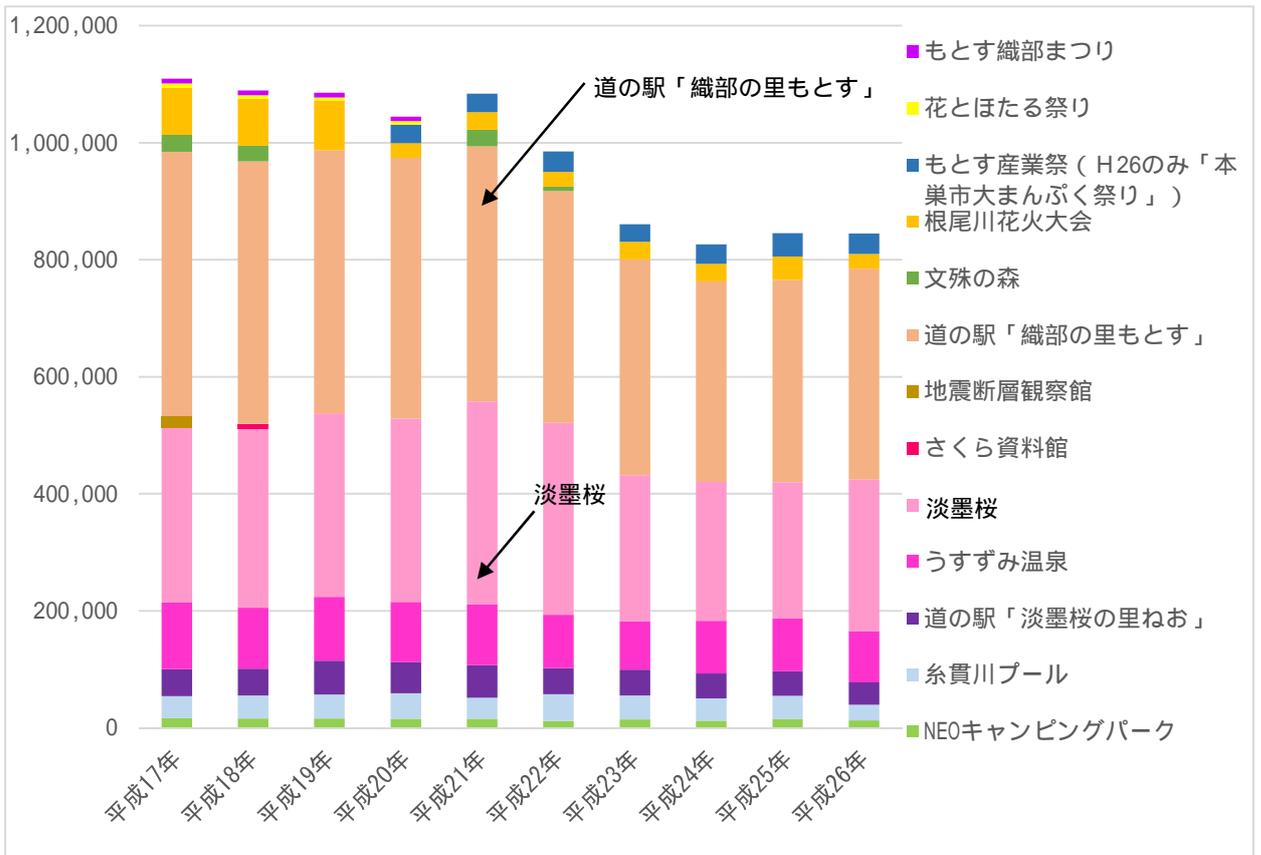


図 3-6 本巣市の年間入込観光客数

地震断層観察館や文殊の森など、年によってカウントされていないものもある

表 3-2 根尾地域の観光資源

能郷白山	<p>能郷白山は、本巣市の北部、福井県との県境に位置する標高1,617m、奥美濃の最高峰の山である。</p> <p>本巣市側の山頂付近は、亜高山性植物及びブナのすぐれた天然林として、岐阜県の「自然環境保全地域」に指定されている。</p> <p>加賀白山を開いた泰澄上人が白山権現の分祀として開山した白山信仰の山で、山頂には能郷白山神社奥宮の祠がある。</p> <p>山頂からは、伊吹山、白山、恵那山、北アルプスの山々など360°の展望が広がる。</p>
能郷の能・狂言 (能郷白山神社)	<p>能郷の猿楽衆の16戸により国土安穩、五穀豊穡、家内安全を祈って奉納されてきた神事芸能で、猿楽衆は能方・狂言方・囃子方とそれぞれの家により世襲的に口伝えで受け継がれている。</p> <p>国の重要無形民俗文化財に指定されており、毎年4月13日には根尾の能郷白山神社で奉納上演されている。</p>
NEOキャンピングパーク	<p>根尾東谷にあるキャンプ場で、約3haの広大な敷地に、コテージ14棟とオートキャンプサイト約60区画が備えられ、アウトドアライフを堪能できる。</p> <p>季節によるイベント企画や体験教室など、年間を通して利用があり、特に行楽シーズンでは多く利用される。</p> <p>年間入込客数13,192人(平成26年データ)である。</p>
うすずみ温泉 「四季彩館」	<p>道の駅「うすずみ桜の里・ねお」に隣接する温泉が楽しめるリゾート施設で、芝生広場やパターゴルフ場等の屋外施設のほか、食事処や宿泊用の客室も完備されている。陶芸や絵付け体験ができる工房も併設されている。</p> <p>年間入込客数は、87,500人(平成26年データ)である。</p>
道の駅 「うすずみ桜の里・ねお」	<p>うすずみ温泉「四季彩館」の施設に隣接する。</p> <p>地元産の新鮮な農産物や加工食品、お土産品などが販売されている。近くでは溪流釣りやキャンプなどで豊かな自然を楽しむことができる。</p> <p>年間入込客数は、38,291人(平成26年データ)である。</p>
淡墨桜 淡墨公園 さくら資料館	<p>根尾谷にある淡墨桜は、樹齢1,500年以上のエドヒガンの古木で、樹高16.00m、目通り周9.90m、枝張り東西方向27.60m、南北方向25.00mの巨樹である(2009年5月測定)。第26代天皇である継体天皇お手植えという伝承があり、由緒ある桜の代表的巨樹として、大正11年に国の天然記念物に指定されている。</p> <p>また、三春の滝桜(福島県三春町)、山高の神代桜(山梨県北杜市)とともに、「日本三大桜」と呼ばれている。</p> <p>開花シーズンには1日に8,000人近く訪れる名所となっており、淡墨ザクラを中心に整備されている淡墨公園は、芝生広場や野外ステージなどがあり、様々なイベント開催等で一年を通して多くの人に利用されている。</p> <p>年間入込客数は、258,500人(平成26年データ)である。</p>
根尾谷断層 地震断層観察館・体験館	<p>根尾谷断層は、1891年(明治24年)の根尾谷を震源とするマグニチュード8.0の巨大な濃尾地震によって地表に出現した断層である。長さ約1kmにわたり、上下に約6m、水平に約3mずれた大規模な断層崖は国の特別天然記念物に指定され、「日本の地質百選」にも選ばれている。地震断層としては日本最大級で、地質学的にも貴重な資源である。</p> <p>100年以上経た現在、断層の跡は風雨や人為によって形を変えつつあるが、恒久的な保存のため、「根尾谷地震断層観察館」として建物の中で真横から断層の断面を観察できる施設が1992年に整備されている。また併設して「地震体験館」が1998年に整備され、合わせて多くの人々が訪れる施設となっている。</p>

表 3-3 本巢・真正・糸貫地域の観光資源

湯ノ古公園	<p>豊富な湧き水を利用した公園に淡水魚「ハリヨ」が生息している。</p> <p>「ハリヨ」は、環境省の絶滅危惧種 Aに指定されている貴重種で、冷たくきれいな水のある場所でしか生息できないため、「明谷ハリヨ指定希少野生生物保護区」とされている。</p>
文殊の森公園	<p>本巢市森林セラピーロードとして認定され、森林浴やバードウォッチング等、四季折々の豊かな自然を満喫できる。</p> <p>山口城跡や中の城跡、祐向山城跡などが残り、頂上の展望台からは濃尾平野や伊勢湾が見渡せる。</p> <p>「ササユリ」の群生地としてササユリ保護育成協会が保護活動を続けている。</p>
道の駅 「織部の里もとす」	<p>安土桃山時代に武士・茶人として活躍した古田織部生誕の地にちなみ名づけられている。</p> <p>農産物や特産物が販売される直売施設、織部展示館、山門ギャラリーや食事処等の施設がある。</p> <p>年間入込客数は、360,988人（平成26年データ）である。</p>
ほたる公園	<p>席田用水沿いに整備されている公園である。ゲンジボタルの繁殖地となっており、5月下旬から6月上旬までの期間にホタル観賞が楽しめる。</p>
富有柿の里 道の駅 「富有柿の里いとぬき」	<p>富有柿の里は、富有柿センター、古墳と柿の館、バーベキューハウス等の複合施設である。</p> <p>隣接して道の駅「富有柿の里いとぬき」では、広域観光情報や道路情報の発信拠点となっている。</p>
真桑人形浄瑠璃	<p>通称「真桑文楽」と呼ばれる上真桑に古くから伝わる郷土芸能で、300年の歴史をもつ。国の重要無形民俗文化財に指定されている。</p> <p>毎年春分の日とその前日に物部神社の祭礼に奉納上演されてきた。浄瑠璃の語りと三味線に合わせて、一体の人形を3人で操るもので、元禄年間に根尾川用水をめぐる真桑用水の開発に尽力した福田源七郎の功を讃えて上演したのがその起源であると伝えられている。</p>
大塚古墳公園	<p>市内の平地で確認されている唯一の前方後円墳である宗慶大塚古墳を散策できるように整備された古墳公園である。</p>



5 交通

交通基盤の骨格を形成する主要幹線道路網は、南北に縦断する国道 157 号を基軸とし、これに繋がる国道 303 号や主要地方道岐阜大野線、岐阜関ヶ原線、山東本巣線などによって構成される。

船来山は、国道 157 号沿いにあり、市内や近隣の市町からもアクセスしやすい位置にある。また、東海環状自動車道が船来山をトンネルで横断する計画があり、モレラ岐阜の北東部に(仮称)糸貫インターチェンジが整備され、2020 年供用開始予定である。

鉄道は、第 3 セクターの樽見鉄道が樽見駅から南に大垣駅まで運行している。地域住民の移動手段のほか、季節ごとに運行されるイベント列車(しし鍋列車)や、温泉や桜を楽しむ観光列車としても活用されている。船来山へは糸貫駅が最寄の駅となる。糸貫駅は、名古屋から東海道本線で約 40 分の大垣駅から約 25 分の位置にある。

バスは、市営バスと民間による路線バス(岐阜バス)が運行している。

広域から本巣市へのアクセスは、車では名神高速道路の大垣インターチェンジあるいは岐阜羽島インターチェンジから約 60 分、鉄道では名古屋駅から JR 東海道本線大垣駅経由で、樽見鉄道を利用し、約 60 分である。東海環状自動車道が開通すると、広域からのアクセスの利便性が向上する。

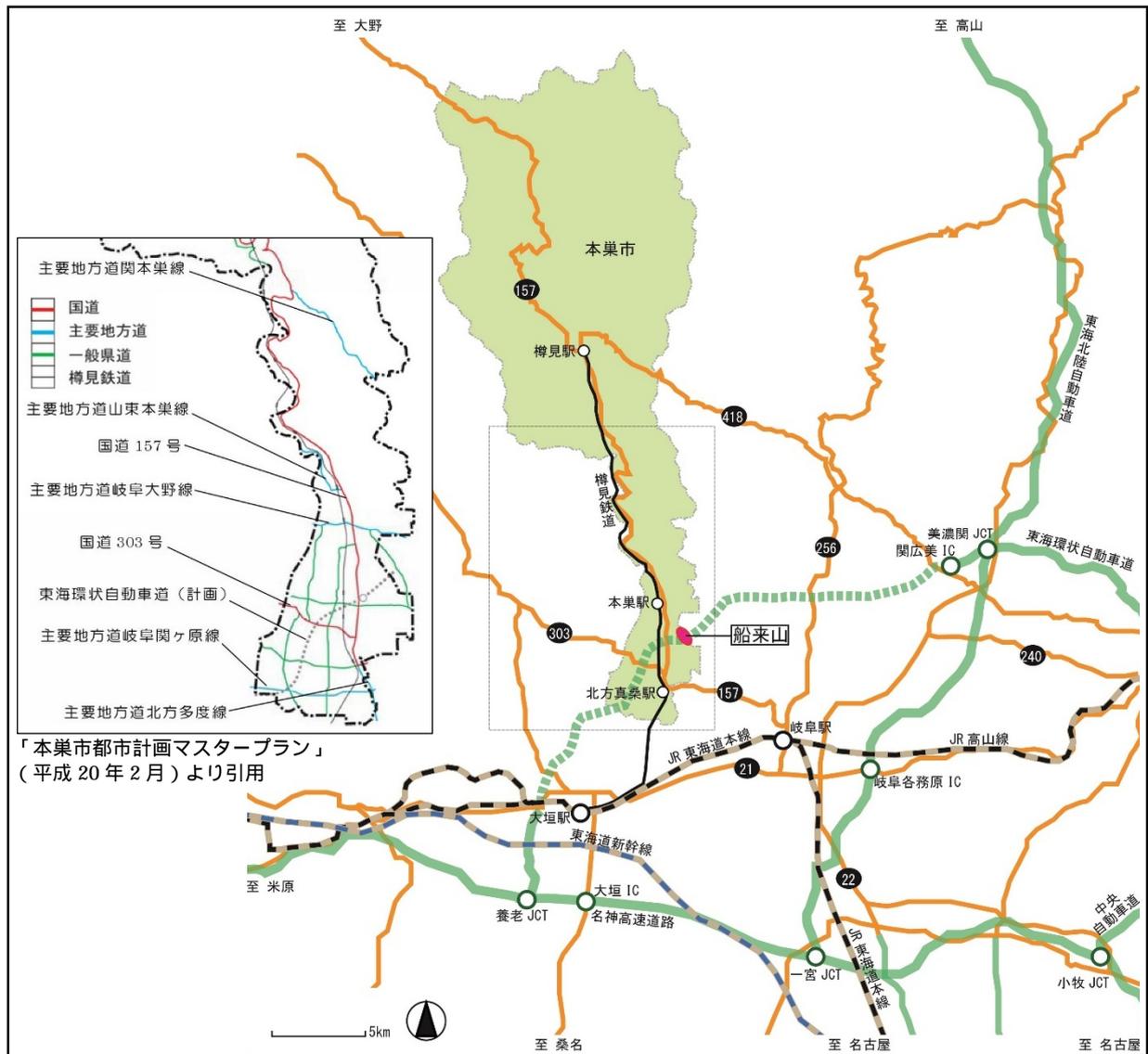


図 3-8 本巣市及び周辺の主要交通網